

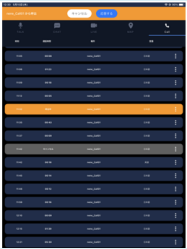
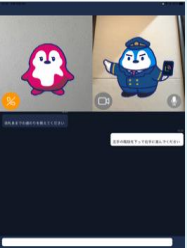
介護テクノロジー等モニター調査事業 計画概要書

1. 申請者（企業）の概要等

企業名	株式会社サイエンスアーツ		
担当者所属	マーケティング部		
担当者名	角谷まどか		
担当者連絡先	住所	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-2-5 MFPR渋谷ビル5階	
	電話	03-6825-0619 （平日10：00～17：00）※祝祭日を除く	
	電子メールアドレス	mkt@science-arts.com	
主たる業種	フロントラインワーカーをつなげるライブコミュニケーションプラットフォーム「Buddycom（バディコム）」の開発・販売		
主要な製品	スマートフォンIP無線サービス「Buddycom（バディコム）」		
希望する施設等の種類や職種等 希望施設に☑を入れてください 複数選択可	☐ 介護老人福祉施設：特別養護老人ホーム ☐ 介護老人保健施設：老人保健施設、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 ☐ 認知症対応型共同生活介護：グループホーム ☐ 特定施設入居者生活介護：有料老人ホーム、軽費老人ホーム、養護老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、地域密着型特定施設入所者生活介護 ☒ 居宅介護サービス：訪問介護、看護、デイサービス、リハ、福祉用具貸与サービス事業者、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護 等 ☐ ショートステイ ☐ 障害者福祉施設 ☐ 医療機関：介護療養型、介護医療院、病院、リハビリテーションセンター 等 ☐ その他：（ ）		
その他の希望			

2. 機器・システムの概要（可能な限り詳しくご記入ください。）

機器等の名称 （仮称）	Buddycom Call
機器等の概要 子機メイン画面	<u>想定する使用者、使用場面</u> ・利用者宅を訪問した職員と主治医や上長との連絡手段として ・オンライン診療のツールとして <u>機能と使用方法、有用性</u> 1対1で遠隔ビデオ通話ができるオンラインツールです。 サービスの特徴： ・多言語に対応（現在19言語、追加対応予定） ・通話相手の手元や表情が見えやすい大きなビデオ画面 ・テキスト入力によるコミュニケーションも可能 子機特徴： ・誤操作を防ぐ為、ビデオのOFF/ミュート/通話終了ボタンがない ・親機への接続が混雑している場合、待機人数が表示される 親機特徴： ・子機との通話履歴や会話内容の確認が可能 ・親機から子機を呼び出して話しかけることも可能

親機メイン画面  親機通話画面 	有用性は以下となります。 ・ シンプルな画面で直感的に操作ができる ・ 会話がリアルタイムに文字起こしされ、履歴が残る ・ 多言語対応（19言語）により母国語同士でのスムーズなコミュニケーションが叶う ・ テキストでもやり取りもでき、発声が難しい症状の方や聴覚障害者の利用も可能 ・ 子機からは終話やカメラOFFができない仕様のため、カスタマーハラスメント対策としてひとりで働くスタッフの心理的安全性の向上にもつながる <u>類似する機器等との相違</u> ・ 子機から連絡した際に待機中の人数が表示されるため無駄な待ち時間の削減が叶う ・ 大きくクリアな画面で保険証の文字や利用者の顔色までしっかり確認できる ・ インターネットがつながる環境であればどんなに離れた距離でも通話可能 ・ 日本、アジア、ヨーロッパ、北米の4地域でサーバーを同時稼働し、障害発生時は自動で切り替えサービスを継続しているため、もしもの時にも安定運用 <u>当該機器等と介護業務との関連性</u> ・ デスクワークをしている方の業務ツールではなく、介護現場の最前線で活用されてきたIP無線アプリBuddycomの新機能であること ・ オンライン診療の際に既存のオンライン会議システム利用では見えにくかった患者利用者の顔や患部を大きく映すことが可能になること ・ β版のため介護業界特有のニーズを踏まえた機能の追加が可能であること（Buddycomは見守りシステムや見守りカメラ等に連携済）
現在の開発状況と課題	<u>機器等に関するリスクアセスメント</u>（性能安全と利用安全の確保対策） ※アセスメント結果を添付して下さい。 詳細別紙（Buddycom_セキュリティチェックシート.pdf） <u>社内や社外モニター調査の実績</u> 実績なし <u>開発に関する当面の課題</u> 既存メニュー（IP無線アプリBuddycom）は介護現場でも導入実績があるが、新機能を介護現場で使用していただく場合の需要やPRポイントが的確なのかわからない

3. モニター調査の概要

1. 調査のねらい	令和6年度介護報酬改定にて「居宅介護支援、介護予防支援」としてテレビ電話装置その他の情報通信機器を活用したモニタリングを可能とする見直しが行われたこと、協力医療機関との連携体制の構築がスタートし、 ①入所者の病状が急変した場合等において、医師又は看護職員が相談対応を行う体制を常時確保していること。 ②診療の求めがあった場合において、診療を行う体制を常時確保していること。 が義務つけられたことに伴い、有効求人倍率が高い訪問介護、訪問看護の現場で訪問先にて業務を進める際の生産性向上の一助となれないか調査したい。
2. 調査概要	1) 調査対象： 訪問介護士、訪問看護師の方 2) 調査したい場面、場所： ・ 訪問介護士、訪問看護師の方が利用者さんのお宅に訪問する際、主治医やセンターに質問確認する際やもしもの時のコミュニケーションに利用 ・ 利用者さんとセンターのコミュニケーションに利用 3) 調査期間（日数）： 一か月 4) 機器の台数： 親機ID必要人数分、子機IDはスタッフさんや利用者さんの人数分

4. モニター調査の実施手法（協力施設等へお願いしたい内容）

※本書のP9～10を参考にモニター調査の具体的な実施方法を記載してください。

注）5つの項目全てを行う必要はありません。（実施しない項目は「特になし」としてください。）

※モニター調査検討委員会等の審議により採択された場合には、当協会及び専門家によるアドバイスをを行います。

1. 利用対象者の適用範囲に関すること	【調査手法】 ☐観察法 ☐インタビュー法 ☐質問紙法 ☐その他： 【想定する調査方法】 特になし
2. 利用環境の条件に関すること	【調査手法】 ☐観察法 ☐インタビュー法 ☐質問紙法 ☐その他： 【想定する調査方法】 特になし
3. 機器・システムの利用効果に関すること	【調査手法】 ☐観察法 ☐インタビュー法 ☐質問紙法 ☐その他： 【取得指標】 i 被介護者（取得必須指標、以下のうち1つ以上） ☐要介護度 ☐ADL ☐IADL ☐LSA ☐日常生活時間 ☐QOL ☐その他（ ） ii 介護者（取得必須指標、以下のうち1つ以上） ☐腰痛等の有無 ☐介護負担指標 ☐ストレス指標 ☐生体情報 ☐その他（ ） iii 介護サービス提供全体の流れ ☒プロセス全体の時間 ☐人員構成 ☒職務タイムスタディ法 ☐その他（ ） 【想定する調査方法】 想定している実施方法は以下となります ●職員向けタイムスタディ調査票内「間接業務」における「巡回・移動」の項目で確認： 施設ごとに1度の対応時間を設定しその回数×人数でどの程度減ったのかを指標とする 確認方法：1度の訪問にかかる移動時間を30分と設定、Buddycom Callの使用のみで対応完了となった業務をカウントする （例：訪問看護の現場で夜勤の際SOSが来たが、Buddycom Callでのやりとりだけで解決した回数5回⇒従来よりも150分減少） ●職員向けタイムスタディ調査票内「間接業務」における「記録・文書作成・連絡調整等」の項目で確認： 施設ごとに1度の対応時間を設定し、上長が別途対応する手間や個別再訪問の手間がどの程度減ったのかを指標とする 確認方法：1度の訪問にかかる移動時間を30分と設定、Buddycom Callの使用のみで対応完了となった業務をカウントする （例：トラブルが発生した際は事後対応が発生していたが、Buddycom Callを使うことで発生タイミングでの複数人の対応が可能になったため事後対応がなくなった3回⇒従来よりも90分減少） その他、Buddycom Callの使用で解決できる施設様固有の課題等ありましたら調査項目を追加できますと幸いです。 応募の際にその旨ご連絡ください。

4. 機器等の使い勝手に関すること	【調査手法】 ☐観察法 ☒インタビュー法 ☐質問紙法 ☐その他： 【想定する調査方法】 ●利用開始前・後の変化をインタビューで確認 想定している質問内容は以下 ・調査開始前のBuddycom Callへの興味関心度はどのくらいでしたか ・調査開始のタイミングは適切でしたか ・調査期間中に使用する機会がありましたか ・一番使った機能は何ですか ・想定していたユースケース以外に、使用中に発見した、新しい活用ケースがあれば教えて頂きますでしょうか
5. 介護現場での利用の継続性に関すること	【調査手法】 ☐観察法 ☒インタビュー法 ☐質問紙法 ☐その他： 【想定する調査方法】 ●利用開始前・後の変化をインタビューで確認 想定している質問内容は以下 ・モニター期間の前後で業務に変化はありましたか、（あった場合）変化があった業務は何ですか ・アプリの使用で訪問中の心理的安全性に変化はありましたか その他、職員向けタイムスタディ法で算出した削減時間があったのか、削減した時間を何の業務にあてたのかなどいかがだと幸いです。
6. その他	留意事項 ① モニター調査で使用する端末、ネットワーク環境はお客様にてご用意をお願いいたします 対象OSはiOSのみ、必要なOSバージョンはiOS14以上となっております。 普段業務で使用されているスマートフォン端末やタブレット端末をご準備ください。ご使用中の端末にアプリをインストールさせていただければと存じます。 ② β版でのモニター調査実施につき、完全な動作を保証するものではありません 一部名称や表示イラスト等変更になる可能性があります。 ③ Buddycomとは別環境となります 現在ご契約いただいているBuddycomとはつながりません。ご了承ください。 ※弊社のIP無線アプリBuddycomをご契約されているお客様で、モニター調査をご希望のお客様への特記事項となります

（注）必要に応じて記載欄を増やしてください。

会社概要



会社名	株式会社サイエンスアーツ
所在地	東京都渋谷区渋谷1丁目2-5 MFPR渋谷ビル5F
代表者	代表取締役社長 平岡 秀一
設立	2003年9月19日
資本金	4億円
ミッション	フロントラインワーカーに未来のDXを提供し、 明るく笑顔で働ける社会の力となる。
事業内容	フロントラインワーカー※をつなげるライブコミュニケーションプラットフォーム 「Buddycom(バディコム)」の開発・販売
Buddycomリリース	2015年9月



証券コード: 4412

※フロントラインワーカーとは机の前に座らない最前線で活躍する労働者のこと。
農業、教育、ヘルスケア、小売、ホスピタリティ、製造、輸送、建設などの産業に従事しております。